

令和4年度（第55回）釧路市スポーツ賞



大日向 勲氏（81歳）【ソフトテニス】

平成25年から釧路ソフトテニス協会の会長として、豊かな経験、知識はもとより熱い情熱をもって協会の組織拡大、ソフトテニスの発展に努力され、現在は名誉会長として協会の大きな支えとなっています。また、日本ソフトテニス連盟の北海道代表メンバーとしてドミニカやブラジル、パラグアイで国際普及活動にも尽力されました。



故 菅原 賢司氏（享年79歳）【柔道】

平成16年に釧路柔道連盟の副会長、平成22年には会長に就任し、組織を取りまとめ、各種大会等の企画、運営及び柔道環境の整備に尽力されました。平成25年には北海道柔道連盟の理事を務めるなど、その統率力や発想の豊かさを活かし釧路市のみならず北海道における柔道の普及振興に貢献されました。また、本市の社会体育活動、地域スポーツの発展にも寄与されました。

授与式は令和4年10月18日に釧路市議会議場（市役所2階）で行われました。式辞で岡部義孝教育長は「大日向様におかれましては、この度の榮譽をひとつの通過点とされ、釧路市のスポーツを更なる高みに導くけん引役として尚一層のご活躍をご期待いたします。菅原様におかれましてはご逝去されたことは大きな痛手であり、ご意思はしっかりと受け継ぎながら今後ともスポーツの普及振興に取り組んでいきますこととお誓いいたします。」と挨拶いたしました。受賞者の大日向氏は「これからも後進の普及、振興に関わるため、指導者としての心構えを学び続けながら夢と希望と感動を求めて精進してまいります。」、故菅原氏の妻菅原成子様は「この度の受賞は柔道連盟の皆様、菅原賢司に関わってくれた皆様のご支援の賜物と感謝いたします。」と挨拶しました。

スポーツ振興に関する要望活動 令和4年8月17日

足立会長、藤原副会長（スポーツ普及促進部会長）が釧路市教育委員会を訪れ、岡部教育長にスポーツ振興に関する要望書を手渡しました。要望書は令和3年8月に設置したスポーツ普及促進部会で協議し「地域スポーツの拠点づくり」「指導者の育成」「運動部活動の地域移行に関する検討組織」の3項目に纏めたものです。一つ目は地域の子どもたちから高齢者までの多世代が、様々なスポーツに親しむことができる釧路版総合型地域スポ

ーツクラブについて協議する場の設置、二つ目は指導者の育成、拡充のため、資格取得助成制度の検討について、三つ目は運動部活動の地域移行に関して、現場の声である運動部顧問・指導教員、釧路市スポーツ協会、競技団体の意見が十分に反映される場の設置です。



永年の功績を讃えて 令和4年度 釧路市スポーツ協会 功労賞

令和4年度功労賞は当協会副会長の北村剛氏、当協会理事の眞籠敏夫氏、全釧路剣道連盟参与の大集民夫氏の3人が受賞されました。

表彰式は例年、釧路市体育祭総合開会式で行っていますが、本年度も新型コロナウイルスの関係で中止としたため、北村氏は11月1日に自宅に訪問し足立会長から、大集氏は11月3日に釧路町総合体育館で行われた全釧路剣道連盟創立70周年記念式典で藤原副会長から、眞籠氏は11月18日に音別町森林体験交流センター「テイクル80」で町民が見守る中、足立会長から授与いたしました。



北村 剛氏 (76歳) 釧路市スポーツ協会副会長・阿寒支部長

平成元年4月から阿寒町体育協会の理事、会長として会の強化、発展に寄与され、平成18年の3市町体育協会合併に際しては新組織発足に向け尽力しました。合併後には釧路市体育協会（現釧路市スポーツ協会）阿寒支部支部長、翌年の平成19年には協会副会長に就任され、以来協会の発展に大きく貢献をされております。



眞籠 敏夫氏 (73歳) 釧路市スポーツ協会理事・音別支部長

平成11年4月から音別町体育協会役員に任命されて以来8年間、副会長・副支部長を歴任し、その後平成19年4月から現職である釧路市体育協会（現釧路市スポーツ協会）音別支部支部長に就任しました。音別町内のスポーツ事業及び各種競技大会開催の中心を担っており、その功績は高く評価されております。



大集民夫氏 (81歳) 全釧路剣道連盟参与

中学生の時に剣道を始め、平成16年に七段、平成19年に教士号を取得しました。各種大会に連盟の代表として活躍するほか、少年団の指導に関わり北海道スポーツ少年団表彰を受賞するなど、剣道の普及発展にも貢献してきました。平成19年からは本連盟の事務局長としての責務を8年間果たすなどその功績は誠に大であります。

令和5年度スポーツ施設整備要請活動

釧路市長・釧路市教育委員会教育長・釧路市議会議長へ(12月27日)

新年度予算編成に向け、スポーツ施設の整備に関する要望について、足立会長、藤原副会長、三森副会長が令和4年12月27日に釧路市役所を訪れ、蝦名市長、岡部教育長、松永議長に令和5年度要請書を手渡しました。

要請書は「スポーツ施設の計画的な補修・改修及び備品整備について」として加盟団体からの48要望項目と「柳町スピードスケート場屋内化の早期検討について」として、自然条件に左右されず、競技環境の飛躍的向上が期待でき、通年利用も可能とする柳町スピードスケート場屋内化の実現に向けた早期検討について要請しま

した。

足立会長は「加盟団体からの要望である施設の補修・改修と備品整備をお願いしたい。スピードスケートは大規模大会が帯広に集中する傾向にあるが、立地条件の良い釧路では柳町の屋内化により帯広とのすみ分けも可能となる。是非検討していただきたい」と訴えました。



令和4年度釧路管内スポーツ協会連絡協議会 役職員等研修会

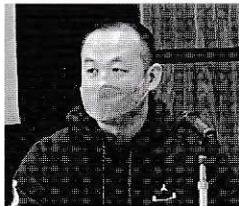
釧路管内8市町村のスポーツ協会で組織する釧路管内スポーツ協会連絡協議会は弟子屈町スポーツ協会が担当し、令和4年10月30日に弟子屈町公民館で「役職員等研修会」を開催しました。競技力の向上、地域スポーツの振興と連携強化を目的とするこの研修会には役員ら25名が参加し、講演と実技が行われました。

講演は2020東京オリンピックソフトボール日本代表の山本優氏が「オリンピックを経験して」と題し、小学2年生で野球を始め、高校でソフトボールに転向後、怪我を克服してオリンピック出場を果たされ、オリンピック決勝戦での遊撃手渥美選手との「神ゲッター」と言われた当時のプレーを解説して下さいました。また、様々な種目をするこ



の大切さやその種目を好きになることの大事さを話されていました。最後に協会毎に記念撮影し、参加者皆さんが金メダルに触れていました。

実技はパーソナル・トレーナーの小林智教氏が「綺麗な歩きで健康な身体を」と題して行いました。小林氏はパーソナル・トレーナーとして東京で一般の方からプロスポーツ選手のトレーニングに携わり、2020年に弟子屈町に移住し、町民や身体に障害のある方に対してトレーニングを提供されています。会場では複式呼吸法や正しい姿勢の保ち方などを体験し、実り多い研修となりました。



第43回全国中学校アイスホッケー大会 景雲中学校連覇

全国中学校アイスホッケー大会が令和5年1月28日から30日まで栃木で開催され、釧路勢で唯一釧路市立景雲中学校が出場しました。

初戦は神奈川選抜に7対2で快勝し連覇へ好スタートをきりました。翌日の準々決勝は日光東を11対4で、準決勝は東京都選抜と戦い先制点を許すも11対1で勝利し、連覇へ大手をかけました。最終日の決勝は全道大会準決勝で敗れた相手全十勝Cと戦い、第2ピリオドに2点を挙げ先制するも第3ピリオドで連続失点を許し同点と

されたが、DFからのロングシュートで勝ち越しを決めると、終盤6人攻撃に出た相手の無人ゴールにパックを流し込み、4対2で勝利しました。新型コロナウイルスの影響で昨年の釧路開催は前日に中止、一昨年も中止となったため、3年生にとっては最初で最後の大会で3年越しの連覇を達成しました。



釧路新聞社提供

第11回女子日本アイスホッケーリーグ Dai shin初優勝

第11回女子日本アイスホッケーリーグ・ファイナルトーナメントが令和5年2月24日から26日に帯広市で開催され、Dai shinと釧路ベアーズが出場しました。

釧路ベアーズは準々決勝で強豪の道路建設ペリグリン（苫小牧）に2対5で敗れましたが、5位決定戦で高須クリニック御影グレッズ（帯広）に3対0で下し5位となりました。

Dai shinは準々決勝で札幌インフィニティーを5対0で撃破し、準決勝ではSEIBUプリンセスラビッツ（東京）を3対2と接戦で制し、決勝

で道路建設ペリグリンと対戦しました。第1ピリオドに先取点を許すも、第2ピリオドで同点とし、試合時間残り1分20秒で逆転ゴールを決めると、相手の6人攻撃を全員で守り抜き、頂点に立ちました。1997年創部以来、初めて全国大会のタイトルを獲得しました。



釧路新聞社提供

第72回全国高等学校アイスホッケー競技選手権大会 釧路市開催 武修館高校 2年連続準 V

全国高校アイスホッケー選手権大会が令和5年1月21日から24日まで有観客で開催され、釧路勢の武修館高校、釧路江南高校、釧路工業高校、釧路湖陵高校の4校を含めた27校が出場しました。

初戦は1回戦シードの武修館を除き、江南は龍谷富山を終始圧倒し勝利、工業は光泉に逆転勝ちしました。全国は26年ぶりの出場となった湖陵は19年ぶりの単独校部員7人で水戸啓明と対戦し、接戦を制し勝利を挙げた瞬間、選手と応援団は歓喜に沸いていました。2回戦では武修館は八戸工大一を、江南は慶応義塾を撃破し準々決勝進出を決めましたが、工業は前年度優勝の駒大苫小牧に、湖陵は強豪清水に敗れました。準々決勝は釧路勢対決となり、武修館が4対1で江南を破り準決勝進出を決め、埼玉栄と

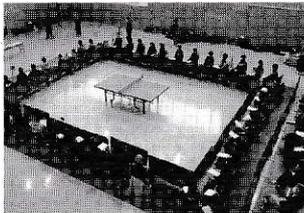
対戦し、終盤にゴールキーパーをベンチに上げての6人攻撃を受け失点しましたが、2対1で勝利しました。

決勝は2年連続で武修館と駒大苫小牧の対決となり、第3ピリオドに反則による1人少ないキルプレーでリバウンドをたたかれ失点し、6人攻撃を仕掛けましたが、パックを奪われて無人のゴールに決められ0対2と惜敗し2年連続で準優勝でした。大会は観客を魅了する熱いゲームの連続でした。



釧路卓球協会 結成100年

1922年12月に結成された釧路卓球協会は、100年を迎え、100年記録誌の発刊と記念事業を実施しました。記念事業は元日本代表監督であります倉嶋洋介氏を招いて、令和4年12月10日にウインドヒルくしろスーパーアリーナで中高選手強化特別講習会、12月11日にはANAクラウンプラザホテルで「東京オリンピックまでの取り組み」と題して特別講演会を行い、終了後記念祝賀会を開催しました。



釧路アイスホッケー連盟 創立50周年

1972年9月創立の釧路アイスホッケー連盟が創立50周年を迎え、記念式典を令和4年7月24日に釧路プリンスホテルで開催しました。式典では50周年記念事業「Tsukasa Clinic in Kushiro」が紹介され、令和4年8月9日から5日間、小中学生を対象にカナダオカナガンホッケーアカデミーのアシスタントコーチであります有波典氏が熱い指導を行いました。



編集後記

令和4年度も新型コロナウイルスの影響で無観客試合が多数ありましたが、徐々に有観客試合が増え、声出し応援も解禁されてきた一年でした。▲ただ、試合中継がありませんと、この3年間の生活スタイルを変えることができず、ついついテレビ、パソコンの前で観戦する日々が抜けていません。▲ワールド・ベースボール・クラシック(WBC)が6年ぶりに開催され、決勝戦でアメリカ代表を3対2で下し、14年ぶりに王座を奪還しました。侍ジャパン最高。▲全日本アイスホッケー大会中学生男子の部が実に4年ぶりに、20チームが参加し有観客で開催されました。釧路選抜は準決勝で帯広選抜を下し、決勝では延長のすえ苫小牧選抜を下し優勝しました。久々に楽しませてもらった5日間でした。選手の皆さんありがとうございます。▲様々なイベントが感染対策を施し開催され、街の賑わいが徐々に取り戻されつつあります。そしてマスク着用が個人判断となり、マスクのない日常生活が直ぐそこまで来ているのかもしれない。▲ただ、マスクのない皆さんとの日常会話が実現するのはまだまだ先になるのかもしれないと思っ

